



学び多き修学旅行

部長 目崎 淳

岩瀬キャンパスの木々に目を向けると葉の緑が日に日に濃くなってきました。初等部グラウンドで元気に遊ぶ子どもたちもいれば、晴れの日も雨の日も読書に親しむ子もいます。梅雨時の休み時間を思い思いに過ごす姿が見られます。

さて、6月5日(水)～7日(金)に2泊3日の日程で修学旅行を実施しました。修学旅行は「児童が文化的に重要な地を見学して見識を高め、情操を深める」ための教育活動で、1886年に東京師範学校が最初に行ったものが全国に広がったといわれています。今回の修学旅行の目的を「仲間との友情を深めながら、中部地方の美しい自然や文化・芸術、歴史や伝統を直接目で見て、体験を通して肌で感じる」としている点からも、本来の目的にそったものであるといえます。そして、修学旅行は、「学びを修めるためにある旅行」です。つまり、6年間の学びの集大成として、これまで培ってきた学びを最大限にいかして取り組む旅行ともいえます。例えば、ホテルでの生活は、4・5年生の時の宿泊体験学習での学びが基になります。

私も、この旅行の引率責任者として一緒に活動しました。学校を出発し、一つ目の訪問地(登呂遺跡)に到着する前に車内で気づいたことがあります。「修学旅行のしおり」の他に、子どもたちはもう一冊しおりのような冊子を持参していました。バス車内で私の近くに座っていた子に、その冊子を見せてほしいと頼んだところ、快くその冊子を貸してくれました。表紙には「**修学旅行 資料集**」と書かれています。表紙をめくると、クラスメートが興味関心を強くもった訪問先などについて、新聞形式で一人1ページにまとめたものが綴られ

ていました。登呂遺跡、瀬戸焼、鵜飼、長良川温泉、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、美濃和紙、郡上踊り、明治村、郷土料理と事前学習の範囲は広範で、調べている内容には深みも見られます。なかには、事前に訪問したことがあるのではないかと考えてしまうくらい、



【読み応えのある資料集】

詳しく記述しているものもありました。これだけのことを出発前に学んでいるのであれば、それぞれの訪問先での学びも充実したことと思います。

事前学習が旅行中にいかされている場面が、もう一つありました。国語の学習で取り組んだ「聞いて、考えを深めよう」という単元です。単元の中で、相手に対してどのような問いかけを行うとより答えやすいか、ということを学習しました。その経験をいかして、それぞれのバス車内でバスガイドさんにインタビューを行いました。もちろん、バスガイドさんが6年生からの質問にスムーズに答えられていたということは、想像に容易いと思います。

小学校6年間の集大成として学びを深め、仲間との絆をより強くすることのできた三日間になりました。6年生には、修学旅行を通して学んだことを、今後の初等部生活にいかして欲しいと願っています。

(修学旅行の様子については、初等部ホームページにも掲載しています。)